

【ポスター発表（2）】

団体名：兵庫日本語ボランティアネットワーク

<団体紹介>

（1）設立趣旨

兵庫県内には約9万8千人の外国人が在住している。インドシナ難民、日系南米人、中国からの帰国者やその家族などが急増し、県内各地に分散するようになった。阪神淡路大震災（1995.1.17）以後、「地域社会で、地域住民と共に、よりよく生きるために日本語学習をしたい」という彼らの要望が高まり、それに応えるために日本語学習支援ボランティアグループが県内各地に生まれた。しかし、ボランティアグループ、個人が支援活動を続けていくためには、教室確保、人材、教材、学習支援のあり方などの面で、多くの問題がある。情報交換し、研修、研究活動をしながら、日本語学習支援をして行くことを目的に、学習支援グループ、個人がネットワークを結び、県内に在住する日本語学習を必要とする人たちへ情報を提供し、日本語学習支援の輪を広げていこうということで兵庫日本語ボランティアネットワークを1997年7月27日に設立した。

（2）組織

2014年10月1日現在、日本語学習支援グループ30団体と約100人の個人会員からなり、代表、副代表、会計、会計監査の役員と運営委員で執行体制をとり、年一回の総会と月1回の運営委員会（役員・運営委員）を開催している。

（3）主な活動内容

- ① 相談活動：日本語学習支援について相談活動（日本語を学習したい人、日本語学習支援をしたい人、グループを作りたい人への相談に応じる）。
- ② 研修会の実施；日本語学習支援者のための研修会を年4～5回開催。
- ③ 日本語学習支援者の養成：日本語学習支援ボランティア養成講座を開催。
- ④ 兵庫県内で遠隔地域の日本語学習希望者に対して学習支援者派遣
- ⑤ 自己主導型学習の日本語教室（写真：消防署見学/学習者発表）
- ⑥ 「外国」から来た子どものための日本語学習支援について研修会の実施
- ⑦ 学校で日本語指導に困っている人へ教材、教授法などの相談活動
- ⑧ 兵庫県内の識字、母語学習支援活動グループと連携し、協力
- ⑨ 兵庫県、神戸市、国際交流団体などに提言活動
- ⑩ 県内外の日本語教育・学習支援ネットワークなどと連携し情報交換
- ⑪ 「ひょうご日本語ネット」の一員としての活動



（4）連絡先とホームページ

- （5）連絡先住所：650-0004 神戸市中央区中山手通1丁目28-7 NGO 神戸外国人救援ネット内
ホームページ：<http://site.m3rd.jp/hyogo-nihongo-volunteer-network/>
Email: hnavn.kobe@gmail.com

事業実施概要

事業名称	「生活者としての外国人」が地域のことを学習するための事業
地域の課題	兵庫県内には約 9 万 8 千人の外国人がおり、日本海から淡路島までの広い地域に点在している。その多くが日本語学習を望んでいる。それに如何に応えるかが課題である。
事業の目的	兵庫県では、阪神淡路大震災（1995,1,17）以降「生活者としての外国人」が安心して生活し、地域参加できる体制も徐々に整ってきた。地域に根差した教材（「こうべを楽しもう」H. 20 作成）を改訂し、それをを用いて学習者が主体的に参加しうる教室の実施と、学習者が自己主導型学習を行うための支援者用養成を目的とする。
事業の概要	日本語教育の実施
	名称：日本語教室「こうべを楽しもう」（初級と中上級クラスの 2 クラス） 目的：地域に根差した教材を用い学習者が主体的に参加することを目的とする。 対象：神戸市に在住または勤務する「生活者としての外国人」 人数：初級 16 人（主な出身国籍：中国）中上級 18 人（主な出身国籍：中国、韓国） 時間：初級：週 1 回×2 時間（全 15 回）中上級 内容：初級、中上級クラス共に教材「こうべを楽しもう」を用い学習者が学びたいテーマをもとに、学習者主体の授業を行った。
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	名称：退職教員など対象日本語教育指導者養成講座 目的：教職経験を活用し多文化社会創生に貢献する人材を育成することを目的とする。 対象：教職経験があり本講座終了後、日本語学習支援活動に携わることを目指すもの。 時間：週 1 回×3 時間（全 11 回） 人数：31 人（出身・国籍：日本） 内容：「生活者としての外国人」が自己主導による日本語学習の大切さおよび、日本語ポートフォリオなどを活用しながら、指導法を教授する。
成果と課題	日本語教育のための学習教材の作成
	名称：日本語教材 『こうべを楽しもう』 改訂版 目的：神戸に住む「生活者としての外国人」のための地域に根ざした教材の作成。 対象：神戸在住および勤務する「生活者としての外国人」 構成：本編（観光、環境、教育、日常生活など）55 ページ、資料編 39 ページ、語彙編 11 ページからなる。
発表者から一言	成果：兵庫県、神戸市、特に（公財）神戸国際交流協力センターとの連携のもと実施することができ、無事『こうべを楽しもう』 改訂版を完成した。 課題：教材作成：『こうべを楽しもう 改訂版』を神戸市内の地域日本語教室や日本語学習者にいかに活用してもらうかが今後の課題である。 地域教材「こうべを楽しもう」を活用しながら、「生活者としての外国人」が自ら、安心、安全で快適な生活を地域住民とともにすることができるよう期待したい。 そのためには自己主導型学習の日本語学習支援システムの構築が望まれる。